

やはり運動会はいいですね

園 長 小 島 澄 人

運動会、いいですね。運動会、誰もが楽しみの一つであり、我が子の一振り、身振り、動きに見入ります。今年度も無事に終わりました。誰もがなぜ楽しみにするのでしょうか。私の幼い時の写真が 運動会の記念写真でした。父と一緒に弁当を囲って食べたこと、そのあとに家族写真を撮ったものです。母は朝早くからみんなの弁当作り、それを横目にワクワクしていた自分を思い出します。運動会は学校あげての一大イベント、また村中の一大イベントでした。徒競走、リレー、演奏会、自分の出番のドキドキ感は今でも残っています。父は教師、学校では先生でした。

コロナの影響で半日になりましたが、子どもたちの動きや走りにびっくりしました。運動会、と言っても、うん、何のこと、そんな顔をしていた三歳の子どもたちも立派に走っていました。年長さんのリレーは感動ものでした。練習、練習、そうした懸念を抱く方もいるかもしれないが、自分ができるようになった姿を見てもらう、本当に素晴らしいことです。うまくできるようになる、認められる、見てもらう、褒められる、いいことです、そんな機会をもっと欲しいぐらいです。本人たちも「あっ、あの子すごい、あの子うまい、早い」と、ほかの子を意識し、そして認める、褒めることも学びました。

競う、そんな意識になる、またこれも経験です。競うとき、本当に自分を発揮しようとしめます。そこでまた自分を知ります。競うことを知った子どもたちは頑張ることも覚えます。

秋になると門にやってくる子どもたち、バスから降りてくる子どもたち、とにかく元気です。挨拶の響き渡る張りのある声、全然違います。運動会という素晴らしい経験をして、ひとまわりもふたまわりも大きくなっています。顔つきも違ってきます。運動会の前後で本当に変わりました。今朝、10月26日の子どもたちの朝の挨拶、本当に元気でした。私も元気いっぱいになって10歳は若がえったようでした。こんな子どもたちの姿、行事という素晴らしい経験を通して成長する、毎日毎日の保育、その合間に行われる行事、メリハリのある行事を経て大きくなっていく、また大きくなってからの思い出になることでしょう。

そんな一大イベントの一つが発表会です。子どもと先生が、役柄を決め、演じる、それだけのようですが、子どもたちには大きくなる、ますます大きくなる時が来ます。物語、夢のような世界に自分を置き、友達と役柄を演じる、大変なことですが、子どもの表現として素晴らしいものとなっていきます。それが楽しみです。みんなに見てもらうのが最高ですが、せめて家族には見てもらう、見る皆さんはじっくり見れる、そんな発表会になることでしょう。楽しみですね。